

## 福島市 優良自主防災組織の活動

受賞年度	組織名	活動内容
令和4年度	五月乙女団自治会自主防災組織	この地区は毎年防災訓練を積極的に実施しており、令和4年度は、水害・地震発生による被害を想定し、コロナ禍でも実施可能な訓練を模索しながら、屋外で訓練が可能な安否確認・情報収集訓練や、班長以上を対象とした少人数による防災講話を実施するなど、コロナ禍に配慮した防災訓練を実践した。 令和4年10月実施の訓練では、新たに地区内における高齢化対策の一環として、自治会が把握している一人暮らし高齢者世帯名簿を活用し、班長による各高齢者等世帯の安否確認と、避難誘導を実施するとともに、高齢者等世帯は、安全・無事を知らせるためタオルなどをドアノブやポストへ掲示する安否確認訓練を実施した。また、高齢者世帯が多く居住する地区であるため、防火対策にも傾注し、消防機関と連携し住宅用火災警報器の未設置世帯への声掛けを行い、設置を行った。 令和4年3月16日の福島県沖地震発生時、町会長をはじめとした役員数名で、一人暮らし高齢者宅を訪問し安否確認を実施している。
	成川区自主防災会	この地区が毎年実施している防災訓練は、区長及び各町内会長が中心となり多数の町会員の参加があり活発な防災活動を実施している。 地元消防団の協力を得て水消火器やバケツリレーによる消火訓練、心肺蘇生法や三角巾・タオルを使用しての救命処置や、毛布・竹竿を活用した簡易担架作成訓練など幅広い訓練を実施している。 また、地区独自の名簿を整備し、ひとり暮らし・避難行動要支援者の把握や地区内の諸団体との協力・連携、役割分担の明確化、連絡体制の具体化を図りました。
令和3年度	北原町内会自主防災組織	毎月15日を「防災の日」とし、当地区で放火が多発した23年前から毎月夜警（平成27年度までは1日と15日の月2回）を継続し、地域の安全・安心を守るために活動している。地域への深めてもらうため、毎年10月15日には育成会の協力のもと小学生を参加させ夜警を行っている。また、町内会エリア内の株式会社サンレディと「災害時相互応援に関する協定」を締結し、企業の駐車場を災害時の一時避難場所としている。
	東浜町会自主防災組織	結成して以来、災害時の活動を円滑に行うため、平成22年より毎年定期的に訓練を実施している。「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」の基本理念を基に、平時から地域住民一人ひとりに組織体制と各班の活動内容を確認するため毎月役員会を開催し、町内会役員の連携を密にして防災意識を高めている。 また、令和3年2月の福島県沖地震時において、各班長へ連絡をとり被害情報の収集により被害の有無を確認するなど、訓練したことを災害時に実践している。
令和2年度	太平寺町会自主防災会	平成25年に地元企業と地域防災協定を締結し、水害時等の避難施設の確保や令和2年には、同じく地元遊技場駐車場を一時避難場所としての確保を行い、地域住民や近隣住民の受入れ体制の整備を行っている。また、令和元年東日本台風（台風19号）時にも、地域住民のほか、他の地域住民も受入れを行った。
	渡利三町会（北部・春日・扇田） 自主防災組織	平成27年から近隣の組織との連携を深めるべく、北部・春日・扇田の三町会が合同で訓練を実施し、防災の基本である「自助」・「共助」に加え、近くの人が近くの人を助ける「近助」の繋がりを大切にしている。また、訓練内容も工夫し、子どもから高齢者まで参加しやすいような内容を取り入れている。
令和元年度	谷地町内会自主防災会	災害時に会員が協力して、生命の安全と被害防止に資することを目的に平成10年に結成。班長以上のリーダーを中心に定期的な訓練を実施し、平成28年度からは災害図上訓練（DIG）を取り入れ、検討課題を明らかにし、住民同士の情報共有により災害に強いコミュニティ作りに取り組んでいる。また、令和元年度は、高齢者にも住宅用火災警報器の重要性を理解してもらうため、住宅用火災警報器モデルハウスを活用した訓練も実施し、住宅用火災警報器設置の促進に努めている。
	田沢町会自主防災組織	昭和62年に結成以来、地域住民に「自分の身は自分で守る。自分たちのまちは、自分たちで守る。」という「自助・共助」の意識を醸成するための訓練等を実施している。災害図上訓練（DIG）により地域の危険箇所や避難経路等の確認、災害時における対策の検討や心肺蘇生法、AED取扱い訓練等、様々な災害や事故を見据えて訓練を実施している。令和元年東日本台風（台風19号）時は接近に伴い、役員により事前に対応協議を行い、被害が発生している箇所はないかの確認や一人暮らし高齢者宅を訪問し、安否確認と避難に関する注意喚起を実施するとともに安全を確保するため、十数名の一人暮らし高齢者を避難所（蓬萊学習センター）に避難させた。

平成30年度	遠原団地町内会自主防災会	平成4年に結成され、毎年若い世代から高齢者世代までの幅広い世代の住民が参加し、さまざまな訓練を行っている。自分たちでできる水害対応やライフライン寸断時を想定した訓練を実施。他の組織でも問題となっている高齢化の問題には、地域育成会と協力し、若い世代や子供たちの訓練参加を積極的に呼びかけしている。
	蓬萊町第七町会自主防災組織	平成2年に結成され、毎年避難誘導をはじめとした、初期消火・救護訓練等を継続的に実施している。また、地域防災訓練にも多くの住民を参加させ、地区における防災訓練の中心的な役割を担っている組織です。東日本大震災の時には、一人暮らし高齢者の安否確認や法面崩壊箇所への立入を制限なども行い、地域住民の安全確保にも取り組んでいる。
平成29年度	下並松親和会自主防災組織	昭和62年に結成され、毎年、実施方法に工夫を凝らし効果的な訓練やD I G訓練の実施に加え、住宅用火災警報器等の設置促進にも力を入れるなど、日頃からの防災活動に積極的に取り組んでいる。
	上名倉地区自主防災会	昭和62年に結成され、様々な訓練の実施に加え、地区における位置情報や活動情報が一目でわかる「防災マップボード」を作成している。また、地元消防団や防災士との連携も図り、防災組織活動の育成強化に努めた取り組みを行っている。
平成28年度	中条町内会防災会	毎年定期的な訓練の実施に加え、独自に町内会の地図を作成し、町内の活動に使用するなど地域特性を把握し、地域の住民を守る取り組みをしている。また、災害図上訓練（D I G）の取り組みも行っており、地域の強み弱みを理解し、その改善策を考えるきっかけとして効果をあげた。
	八木田町内会自主防災部会	災害時の対策に関するアンケートを町内会で実施したほか、地域独自の防災計画の立案及び適宜改正を行っている。また、避難所や避難ルートを災害種別ごとに記載するカードを作成し、「自助・共助」を自主的に実施している。